

# 社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業

## 最終アウトカム (上位目的)

社会的養護下にある若者に対する地域連携包括支援事業が普及し、若年で自立を余儀なくされる若者が本人の最善の利益に即した暮らしができ、円滑な社会生活を送ることができる社会包摂型の地域社会になる。

## 中間アウトカム (戦略目標)

- ・社会的養護下にある若者の、自立への意欲、生活環境が改善され、本人の特性に即した職業選択ができる
- ・社会的養護下にある若者に対する周囲の理解や意識の変化が進んでいる

## 目的達成のための直接アウトカムとその活動

地域連携モデル（受益者の変化①スキル②人間関係の質③人間関係の量（広がり）④ベーシック・ニーズの保証、を実現するための多機関連携）ができている

- ①退所前の支援（キャリア教育、生活支援等）
- ②退所後の支援（就労支援、住居支援、人材育成等）
- ③地域資源（第一次産業、地域産業、空き家、都市と農村等）を活用した居場所/仕事の創出
- ④多様な主体（施設、事業者、NPO、学校等）の連携促進

実行団体が、地域連携包括支援事業を推進できる体制ができている

- ・研修会（評価、組織基盤強化、資金調達）の実施
- ・勉強会（社会的養護、会計）の実施
- ・先行事例等知見の共有

実行団体がハブとなり、地域連携包括支援事業に参画するステークホルダーが拡大するモデルができている

- ・地域のリソースをつなげる支援

## 本事業で解決する課題

- ①当事者を中長期に支える仕組みの不足：施設退所後につながる仕組み/機会の不足
- ②当事者を支える組織の質・量のがぜい弱/資金・人材・数・質の不足
- ③支援者間の情報・事業の連携不足：リソースが呼びこめていない、またつながっていない